

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体的取組等	令和5年度の取組実績	令和6年度の新規取組等
1	死因究明等に係る人材の育成	検案医師、歯科医師の確保及び人材育成 ・県内の検案の嘱託医師は17名、高齢化が進み、次の世代の医師の確保が課題	・検案医の確保・育成 (輪番制の検討 など)	・検案医師、歯科医師の確保・育成のための研修等の実施【検案医会、医師会、歯科医師会】 ・人材確保・育成のための各地域の取組事例(輪番制の導入等)の他の地域への共有【検案医会、医師会、歯科医師会】	●岩手検案医会研修会の開催(R6年度継続)【検案医会】 ●岩手県歯科医師会法歯学セミナーの開催(R6年度継続)【歯科医師会】 ●身元確認作業の合同研修会の開催(R6年度継続)【歯科医師会、法歯学、海保、県警】 ●日本医師会主催の死体検案研修会、死亡時画像診断(Ai)研修会、「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会への参加(R6年度継続)【医師会】 ●セミナー、研修会等への学生や若年層医師への参加呼びかけ(R6年度継続)【法医学、法歯学、医師会、歯科医師会】 ●学生に対する教育の充実(R6年度継続)【法医学、法歯学】 ●平時の歯科情報による身元調査を可能な限り歯科医師会警察歯科委員会に委ねる(R6年度継続)【法歯学】 ●新任の歯科医師会警察歯科委員へ所轄警察署より身元確認依頼があった場合、現場で行うべき業務についての資料配布(R6年度継続)【歯科医師会】 ●組織内における若手職員に対する研修(R6年度継続)【海保】 ●死者かかりつけ病院医師(開業医等)に対する積極的かつ継続的な検案依頼(R6年度継続)【県警】 ●検案医師獲得に向けた開業医への声掛け及び継続的な検案の協力依頼(R6年度継続)【県警】	●岩手医科大学附属病院研修医に対する死亡診断書、死体検案書に関する講義を岩手県立病院研修医が聴講可能な環境の整備【法医学、県立病院、事務局】 ●平時の歯科情報による身元調査を可能な限り歯科医師会警察歯科委員会に委ねる(目標年間2桁)【法歯学】
2	警察等における死因究明等の実施体制の充実	現病歴情報、処方薬情報の早期把握 ・現病歴・既往歴は、死因を特定するうえで重要な情報であり、早期の把握が必要	・現病歴情報等の把握状況の確認及び整理	・検案及び法医解剖時に必要な医療情報の整理【医大、県警、海上保安部】 ・検案及び法医解剖時に医療情報提供に関わる全国的な動向の把握・法的根拠の整理【県警、海上保安部】 ・医療情報提供に係る具体の事例(提供可、提供不可の例)を踏まえた課題等の整理【県警、海上保安部】 ・医療情報の提供に係る県内の主要な病院に対するアンケート等の実施【医大、県警】 (必要な医療情報項目及び依頼文書を提示し、医療機関が情報提供するために必要な事項を確認、休日対応の可否・休日に提供可能な事項の確認)	●市町村ごとでの住民の歯科情報集約(レセプトからの簡潔な情報の集約)への試みは実現困難と判断(進展なし)【法歯学】 ●検案、法医解剖時に必要な医療情報の整理(R6年度継続)【海保】 ●医療機関ごとの情報提供方法の整理(R6年度継続)【県警】	●検案及び法医解剖時に必要な医療情報の整理【法医学、検案医会、海保、県警】 ●検案及び法医解剖時に医療情報提供に関わる全国的な動向の把握・法的根拠の整理【県警、海保】 ●医療情報提供が不可であった事例の整理【県警、法医学】 ●可能であれば医療機関へのアンケートの実施【法医学】 ●歯科医療情報の集約に係る国の動向の注視【法歯学】 ●行政と学究的組織との情報および知識共有促進(特に今年度からは釜石海保と)【法歯学】 ●警察署管内の医師との良好な関係の構築【県警】
3	死体の検案及び解剖等の実施体制の充実	大規模災害時の対応 ・東日本大震災津波の教訓を踏まえた連携体制の維持と災害等の状況の変化に応じた定期的な見直しが必要	・大規模災害に備え、より多くの医療従事者の訓練参加 ・市町村の状況確認と防災担当課との連携のあり方を検討	<大規模災害時の対応> ・大規模災害に備えた災害対応に係る資質向上のための医療従事者の訓練参加【検案医会、医師会、歯科医師会】 ・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの大規模災害発生時における死因究明・身元確認体制の確認【医大、市町村、県】 (日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の被害想定 の整理、災害時の連携体制の確認、各地域の遺体安置所設置可能箇所及び死因究明・身元確認に必要な機材の準備状況の確認)	●東北管区広域緊急援助隊北部三県合同訓練や岩手県総合防災訓練等への参加(R6年度継続)【法医学、法歯学、検案医会、医師会、歯科医師会、海保、県警】 ●岩手県地震・津波被害想定調査報告書の被害想定を前提とした調査の実施(R6年度継続)【法医学】 ①遺体安置所を同時に多数箇所設置する体制に関する調査 ②遺体安置所設置に関わる市町村の準備状況 ③死因究明に必要な備品数の調査 ④現状で岩手県内の各機関が保有する死因究明備品数の調査 ⑤検案医の派遣元に関する調査 ●市町村単位での災害訓練の企画立案(R6年度継続)【法歯学】	●市町村担当者への遺体安置所に関わる説明会の実施【法医学】 ●令和5年の調査で明らかになった死因究明に関わる不足備品の購入【県警、法医学】

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体的取組等	令和5年度の取組実績	令和6年度の新規取組等
4	死因究明のための死体の科学調査の活用	死亡時画像診断の実施率の向上 ・死亡時画像診断の実施率（県警）は、過去10年で2017年の33％が最高値で、これ以外の年は約30％前後で推移。 より正確な死因判断のため実施率の向上が必要	・死亡時画像診断が必要な例の整理 ・地域ごとの現状把握	・死亡時画像診断が必要な事例の整理【県警、医大】 ・死亡時画像診断の活用・有用性について検案医師、歯科医師への勉強会等を実施【医大、検案医会、医師会、歯科医師会、県警】 ・死亡時画像診断に係る地域ごとの現状・課題を整理し、死亡時画像診断の実施体制の充実に向けた対応策を検討【医大、医師会、歯科医師会、県】	●岩手医科大学法医解剖室のCT更新【法医学】 ●歯科的死後記録採取におけるエックス線画像撮影実施の必須化（R6年度継続）【法歯学、歯科医師会】 ●岩手県警察本部鑑識課へポータブルレントゲンの貸出【歯科医師会】 ●死亡時画像診断が必要な事例の整理（R6年度継続）【法医学、県警】 <ul style="list-style-type: none"><li>・頭部外傷や胸腹部損傷のご遺体</li><li>・交通事故か病死かが不明な場合</li><li>・既往歴や持病が分からず、外傷もないご遺体で変死の疑いあるご遺体</li><li>・不詳の内因死</li></ul>	●県内各地域ごとの死亡時画像診断の実施状況の調査【法医学】 ●ポータブルレントゲンの整備【歯科医師会】
5	身元確認のための死体の科学調査の充実及び身元確認の円滑化	身元確認の円滑化 ・通院（歯科）履歴の判明により、死者の身元特定を迅速に行うことが可能であることから、生前情報の収集が重要 ・東日本大震災津波の教訓を踏まえた連携体制の維持と災害等の状況の変化に応じた定期的な見直しが必要	・通院先（歯科）把握の状況の整理	<身元確認の円滑化> ・身元確認の円滑化に向けた歯科情報の収集の検討【医大、歯科医師会】	●死者に対する候補者の生前通院先を知るための方法を確立させる（主にレセプト情報から）ことは実現困難（進展なし）【法歯学】	●オンラインを利用した検索システムの運用（岩手県総合防災訓練において、実態に即し生前記録を、かかりつけ歯科医院にて入力し遺体安置所にて照合作業を行う。）【歯科医師会】 ●調査法解剖件数の拡大に向けた取組【県警】
6	死因究明により得られた情報の活用	・死亡時画像診断や解剖結果を県医師会、県歯科医師会等への共有し検案医師、歯科医師の資質向上に活用 ・児童虐待が疑われる事案に係る児童相談所等への情報共有と連携		・死亡時画像診断や解剖結果の検案医師や歯科医師の研修等への活用の検討【医大、検案医会、医師会、歯科医師会】 ・各種会議等を通じた児童相談所との情報共有・連携【医大、県】	●警察官への口腔内写真の撮影方法の習得（R6年度継続）【歯科医師会、県警】	●検案医研修会における死亡時画像診断に関する講演の開催（千葉大学法医学教室 岩瀬博太郎教授）【法医学】 ●児童虐待に関し法医学と児童相談所の連携の可能性に関する調査【法医学】 ●岩手県歯科医師会法歯学セミナー事例報告会の開催【法歯学】